2019

J・A・C

（第 48 号）

令和元年 10 月発行
発行元（公社）日本山岳会千葉支部
〒285-0850
佐倉市西ユーカリが丘 5-12-4 松田方
発行者　松田　宏也
編集者　吉野　聰
E-Mail　cib@jac.or.jp

（表紙の絵）「木曽路妻籠宿」
水彩画　小菅一弘　作（敬称略）

剱　岳　と　水　平　歩　道

8 月 2 日（金）～6 日（火）　　山本哲夫（リーダー）

剱岳を登った後、静かな池ノ平と水平歩道を訪ねる４泊 5 日のテント泊。行程は室堂から剱沢テント泊、剱岳往復、剱沢、真砂沢ロッジ、二股、仙人新道、池の平テント泊、仙人池、雲切新道、阿曾原温泉小屋泊、水平歩道を経て欅平に抜ける。懐かしい山と谷を巡る山旅である。出発の前日、2010 年 7 月集英社発行の週間百名山の剱岳地質資料に気づき参加者に配布しておいた。食料は各自で用意し、共同装備のテントは性別を問わず体力のある者が引き受けた。今回、岩場を安全に登るため鋸山と三つ峠で初級岩登り教室の 2 回参加を条件とした。7 月 29 日に梅雨明け、8 月 2 日に台風 8 号が発生したが全日快晴に恵まれた。剱岳は出発が遅かったのでカニのたてばいで少し待つだけで登れた。剱沢雪渓は自分だけ用意しなかったが滑り止めが必要だった。仙人谷は残雪や登山道が不安定で総合的な登山技術が必要である。雲切新道は急な尾根で脚力が試された。水平歩道は、その前後や途中にアップダウンも有り、緊張と暑さ、重量に悩まされた。後半は人も少ない。単独行者が転落すると発見が難しく、阿曽原温泉小屋の情報では近年 3 名の不明者がいるという。

参加者　山本哲夫（L）、三田博（ＳＬ）、小川和敏、三品京子、宮崎美智代、川島辰雄、山田紀夫、山口文嗣

室堂、剱沢、剱岳往復

記：川島辰雄

８月２日（金）　１３時、剱気御前小舎に全員が集結し剱沢キャンプ場へ。夜半、長時間の雷鳴と激しい雨で眠れなかった。

８月３日（土）剱岳に向け出発、剣山荘・一服剱と進むと「カニのたてばい」に代表される鎖場が現れた。リーダーの山本さんより「鎖に頼らず極力自分の手足で登るように」との指示がでた。次の岩の掴みどころを探し、三点確保しながら登る。鎖に頼るより楽しいし楽に登れた。それでも登りに余裕はなく、次の一点を探し必死に登った。約４時間弱の格闘の末頂上へ。祠に手を合わせ、登頂の感謝と無事下山をお願いした。下りを考えると景色を楽しむ余裕はなかった。下りも急な岩場が続く、「カニのよこばい」はスムーズに通過した。体も手足も動く、そんな時に足を滑らせ体を振られた。事故は下りで起きる、自分をいましめ慎重に下りた。小休止、メンバーがコマクサの群落を見つけた。３羽の雷鳥の親子がいた。雷鳥の子供は見ているだけで心和む。剣山荘まで下り、剱岳を見上げると岩に人がへばり付いている。あの岩山をどう登り下りしたか想像がつかない。　翌日、縦走組５人を見送った後、山田、山口、川島３人で室堂に。自分の技術・体力では無理と半ばあきらめていた剱岳を登れた事は嬉しかった。

剱沢、池の平テント泊、仙人池、阿曾原温泉小屋泊、水平歩道、欅平

記：小川和敏

８月４日（日）　５人で剱沢の夏道から三大雪渓に。平蔵谷、長次郎谷を横目に長い雪渓を下る。真砂沢ロッジに到着すると、救助ヘりが骨折した登山者を救出していった。気を引き締める。二股までのルートはハシゴや鎖場もあって体力と技術が必要だ。急流の淵上の鎖は遊びが多く、丸太の足場が外傾しバランスが難しかった。仙人新道の登りも堪えた。リーダーの励ましに助けられ仙人峠に。池ノ平小屋まで 30 分ほど下りテント設営。他に一張り。聞くと、北方稜線から剱岳に向かうという。

８月５日（月）　平ノ池では静寂な水面に映った裏剱に圧倒された。仙人池も逆さ裏剱が見事だった。阿曾原を目指し仙人谷へ。雪渓を右岸から左岸、そして右岸へと、踏み抜きに注意し進む。仙人温泉から雲切新道へ、標高 960m 地点で雷鳴と少し強い雨が。足許が不安定な上に重いバックパックに難儀し、鎖場と２段ハシゴを下って仙人谷ダムへ。旧日電歩道を行き、皆が苦しめられる登り返しから水平歩道に。下るとやっと、阿曾原温泉小屋に到着。小屋泊が OK でひと安心。名物の露天風呂に生き返った。久しぶりの布団で疲れも取れそうだ。

８月６日（火）　皆、食事らしい朝食に満悦。温泉小屋の佐々木さんに見送られ出発。200m 登ってから水平歩道へ。黒部峡谷は深い断崖が続く。転落だけに気を付け、緊張の中、水平歩道を楽しむ。水場は折尾の大滝の１ヶ所だった。歩道を整備してくれている方たち４人に遭遇し、思わず大声で「お疲れさまです」と。欅平に近づき水平歩道を終了。コースタイム約５時間を７時間ほど掛かった。黒部の風が「よく歩いた」と頬をなぜてくれた。

高 川 山 か ら む す び 山 へ

4 月 29 日（月）　　三田博

高川山は駅からバスを使わず直接登れ、また山頂から富士山の眺めも良いので人気の山だ。手軽に楽しめることから私も何度か登っている。かつては山頂犬「ビッキー」が住み着いて登山者から可愛がられていたことも懐かしい。

4 月 29 日、夏山への足慣らしに 8 名でこの山を登った。無人駅の JR 初狩駅ガードをくぐって、墓地の脇のアスファルトの坂道をゆっくり登ると 30 分ほどで登山口に出る。「熊注意」の看板があるので、街中に近いこのあたりにも出没することがあるのだろうか。

樹林の中を歩き、「男坂」と「女坂」の分岐へ。今日は夏山へ向けてのトレーニングでもあるので、もちろん男は黙って「男坂」へ！　急登を我慢して 30 分ほど登り、「女坂」と再び合流すると道は穏やかになり、すぐに頂上だ。駅を出て 2 時間ほどで 976mの山頂に着いてしまうので、とても気楽な登山だ。

山頂は予想通り沢山の人でにぎわっていた。私たちも場所を見つけて富士山を眺めながらの昼食タイムとした。すると、集合時間に間に合わず、欠席表明をしていた吉田さんが息を切らせて登ってきて無事に合流。集合写真では一番の笑顔のわけです。

さて今回は地図読みも課題にしたので、コンパスを使って大月駅まで目指す。高川山はコースが多彩で、禾生駅や田野倉駅に下りる道もある。落

ち着いて標識を地図で確認しながら、途中急な坂をトラロープで下り天神尾根を歩いた。

山頂を出て 2 時間半ほどで大月の町を一望できる「むすび山」に到着。ここにはかつて太平洋戦争時に米軍機を監視する見張り台だか高射砲が据え付けられていたようだ。その跡が石垣として残っている。春先にはカタクリの花の群落で有名だそうだ。名前の詳しい由来は分からないが、その「むすび山」が、我々の会話の中では「おむすび山」になり、最後には「おにぎり山」になってしまっていた！

むすび山からの坂道を下りていくと、唐突に民家の庭先に出る。後は 20 分弱歩けば大月駅だ。

参加者：三田博（L）、三品京子、吉田望、川嶋辰雄、鎌谷繁、塩塚生二、竹園清孝、神山良雄

十文字峠～甲武信岳　（アズマシャクナゲと新緑）

6月2日（日）～3日（月）　　平出正美

十文字小屋のアズマシャクナゲ」に魅かれて参加することにしました。千葉支部に入会し3年目となりましたが山のことはまだ知らないことばかりです。今回の甲武信岳もネットで調べて埼玉、山梨、長野にまたがる百名山の一つであることを初めて知った次第です。

日曜日なのに渋滞もなく順調に走った松田車は11時45分に信濃川上駅で湯下さんをピックアップし標高1,460mの毛木平駐車場車へ。13時、恒例の準備体操をしてゆっくり登山開始。15時半に標高2,033m丸太組の十文字小屋に到着。小屋の周りはシャクナゲの群生がほぼ満開で薄いピンクがとても綺麗。整理体操をしていたら小屋のスタッフが我々の体操写真を撮って、もう一人のスタッフにこれが大事なんだと話していた（あとで聞いたら地元の山岳会の会員でした）小屋からの眺望は望めませんでしたが、トイレが新築されており山小屋のトイレとは思えないほど綺麗で清潔でした。宿泊者は我々四人を含め七人で広めの三段ベットの十二人部屋を四人で使わせてもらいました。ランプの下での夕食はポトフにワラビとフキの山菜のおひたし。その味付けと食感は「感動のまいう～」ものでした。

翌日5時に起床し朝食（ここでもスタッフから特別だよと言われたキノコ汁が「まいう～」）準備体操後6時に出発。途中にシャクナゲのトンネルはありましたが残念ながら花は咲いていませんでした。7時鎖場と梯子の急坂を過ぎたあとは、まだかまだかとダラダラの登りが続きます。10時40分、ようやく今回の最高峰の標高2,483m三宝山に辿り着きました。三宝山から一旦下って登り返し標高2,475m百名山の甲武信岳で記念写真後、甲武信小屋まで下り休憩にしました。本来は甲武信岳からすぐに千曲川源流方面へ下山予定でしたが、松田Lのカン違いで甲武信小屋に下りたのを幸いにゆっくりランチとなりました。甲武信岳に登り返して下山開始、13時40分に千曲川源流地点、渓流沿い遊歩道を下り15時に水の流れが綺麗なナメ滝、その後も遊歩道をとぼとぼひたすら歩き17時00分駐車場に到着。

天気にも恵まれ、静かなランプの宿、「まいう～」の食事、シャクナゲの花と新緑に癒された山行でした。

メンバー：松田宏也（L）、渡部孝雄、湯下正子、平出正美

三つ峠―アツモリソウを訪ねて－

6月１４日(金)～１５日(土)　　竹内進

三つ峠山頂への最短路、北側登山口駐車場に11時半前到着。20数年前子供たちを連れて来た時とはえらい変わりようで、駐車場が広くなり整備されただけでなく立派なトイレまである。人気が高く平日なのに20台ほどが駐車。

11時37分発。登山道も良くなっていて歩き易い。軽快に下っていく外国の若い二人連れとすれ違う。目的の三つ峠山荘に近づくと体力トレーニングを兼ねてとペースが速くなり、12時34分、1時間弱で到着。山荘前のベンチで昼食。富士山が雲間に見え隠れ。明日が雨模様なので、予定を早めて三つ峠山荘の中村さんにアツモリソウを案内していただく。初めて見るアツモリソウは中村さんが「花の女王」とおっしゃるのも納得の楚々としたピンクの気品を感じる花でした。保護の鉄柵などが設置され、誤って踏まずに済む。父上の代から保護活動を続けておられる中村さんから、「アツモリソウなどのラン科植物は菌と共生しているので、菌がいなければ育たず、環境全体を保護する必要がある」との話を伺う。今、咲いているアツモリソウも多くのボランティアの方々(女性が多いとのこと)の環境保全活動の結果との説明に感銘。かつては木無山の名前の通り草原状だったが、近年カラマツが育ち、その環境に適応するテンニンソウが増え、ニホンジカの進出と相まってアツモリソウ、ギボウシなどが圧迫されているとのこと。

見学後、登山道から少し奥に入った高度差15mほどの天狗岩で岩登りトレーニング。新調したばかりの10.2㎜のロープで山本リーダーが確保。9㎜でも強度は問題ないのかもしれないが、やはり、太目の方が安心感があった。山荘に戻り、環境保護委員で30年以上の三つ峠歴の佐野さんに御巣鷹山にカモメランなどを案内していただく。

帰りに最高峰の開運山にも登り、3つの山頂全てに登頂。山荘到着と同時に雨が降り出したのは出来過ぎ。風呂に入り、夕食後も11時近くまで、写真や絵を見せていただき、お話しを伺う。山小屋でこれほど遅くまで起きていたのは初めて。翌日は、中村さんからアツモリソウとラン科植物の生態をパワーポイントで1時間程教えて頂いた後、雨の中を下山、帰路に就く。

参加者　山本哲夫（L）、小川和敏（SL）、三品京子、宮崎美智代、川島辰夫、竹内進

岩手の山（栗駒山、早池峰山、焼石岳）と秘湯の旅

６月１６日（日）～１９日（水）　　柳川　しげよ

岩手県出身の羽藤さんのはからいで、秘湯まで味わうという贅沢な山旅へと出発した。

16 日、東北新幹線「はやぶさ」で一ノ関に向かったが、梅雨入りの雨で予定の栗駒山は断念。気を取り直し「これも雨がもたらしてくれた縁！」と観光に切替えた。絶景の厳美渓では美味しい郭公団子をいただき、達谷窟毘沙門堂、世界遺産毛越寺境内の庭園、中尊寺金色堂へと足を運んだ。観光後は焼石岳の麓にある温泉、つるつる温泉焼石「ひめかゆ」にて明日に備えた。

翌日も朝から雨。中沼登山口から地元山の会の方（羽藤さんの山友）２名が同行して下さった。無情にも雨は降り続いて小さな渡渉も水かさが増していた。「いちばん高山植物が美しい時なのに･･･」と残念そう。銀名水のある避難小屋で昼食としたが、雨で濡れた体にストーブの火はありがたかった。その時ネマガリタケで作られた行李（こうり）の弁当箱から胡瓜の漬物が出てきて振る舞われた（その後私は地元の成田山参道で同じ行李の弁当箱を見つけ購入）。結局、天候は回復せず、後ろ髪引かれる想いで下山することになった。松田さんの「引き返した地点が頂上・・」なんと、素晴らしい力づけの言葉か。その日は早池峰神社近くの民宿「やまと坊」へ移動し宿をとったが、夕食に出たどんぐりの実で作ったきな粉のかかったデザートの美味は、不思議な出会いでもあり忘れられない。

18 日の朝は快晴。三田さん友人の平藤さんも合流し小田越登山口から 3 時間、ガスと強風へと天候急変するも全員で早池峰山頂上に立った。下山後は平藤さんにヒカリゴケの群生地を案内してもらった。宿泊最終日、まさに秘湯「元湯夏油（げとう）温泉」で露天風呂を満喫する。しかしながら、この夜山形県沖で発生した震度６弱の地震にみまわれ、急に現実に引き戻される一幕があった。19 日、小雨のなかイワカガミ平中央コースより栗駒山に登るが、下山する頃には本降りの雨となった。梅雨入りのなか早池峰、栗駒と登り、焼石は残念ながらまたの機会となったが、岩手の奥深い山と秘湯を十分に味わえた山旅となった。

参加者松田宏也（L）、羽藤美代子（SL）、吉永英明、三田博、湯下正子、平出正美、柳川しげよ

山　形　蔵　王　・　月　山

7 月 11 日（木）～13 日（土）　　渡部　孝雄

1 日目：松田 L 宅を車組３名で 6：00 出発し、かみのやま温泉 IC 下車、電車組３名をかみのやま温泉駅で 10：10 にピックアップして、刈田岳山頂駐車場へ向かう。駐車場に 11：50 頃到着し、30 分の昼食休憩を取り準備体操行い熊野岳に出発する。蔵王連峰は山々の集まりの総称であり、蔵王山という単独峰があるわけではない。この山に来た目的は、お釜とコマクサを見るためだ。登りの右側にお釜があり、天気も良くエメラルドグリーンの水をためたお釜は別世界の風景であった。頂上に 13：35 到着、風が少し強いが眺望良好、明日行く月山が見え、朝日岳、飯豊山も見えたが鳥海山は雲の中でした。下山はコマクサの群生地を見るルート、コマクサをこんなに見たことが無かったので感動した。体操をして宿に 16：00 到着。

2 日目：朝から雨、宿を 8：00 出発し月山登山口へ向かうが、1 日雨だと言われ今日登るのを断念する。今日泊まる宿に荷物を下ろし、この辺の見所と食べどころを聞き 10：35 に湯殿山に向け出発、湯殿山神社本宮では裸足になり、御祓いを受けてお詣りをした。昼食は、そば処 大梵字、地元産そば粉 100％の挽きたて・打ちたて・茹でたての三たて十割そばでとっても美味しかった。次に鶴岡市立加茂水族館、幻想的ですてきな水族館でした。良い休日になりました。

3 日目：宿 8:00 出発し、駐車場 8:20 到着、雨なので室内で準備体操を行いリフトに乗り姥ヶ岳に 9:25 着、小雨が降っている。雪渓を４つ横断したが２つ目地点くらいから雨が上がり明るくなってきた。後ろを振り向くと白と緑のコントラストが素晴らしい景色が広がっていた。頂上に 11:20 着、月山神社にも参拝。天気の良い中で 40 分昼食休憩が出来て良かった。月山は、湯殿山、羽黒山とともに出羽三山と言われており花の百名山でもある。下山は雪渓を下るルートで楽しかった。駐車場で体操を行って 15:30 出発、かみのやま温泉駅で電車組を降ろし、車組は松田 L 宅に 20:30 到着。

＜参加者６名＞松田宏也（L）、平出正美、梶田義弘、羽藤美代子、吉田望、渡部孝雄

鹿　島　槍　ヶ　岳　山　行

7 月 20 日（土）～23 日（火）　　湯下正子

20 日、松田さんの 40 年来のお付き合いという白馬駅前の民宿「昇盛館」に前泊。

翌日 7:30 柏原新道から登り始めた。ペースは快調で、晴れでもなく雨でもなく皆順調だった。ところが種池山荘が見えてからが長かった。後ろから三田さんの「よっこいしょ」の声が聞こえ、鍛錬の為に重いザックを背負った小川さんからは「重い、重い」の声が聞こえた。私も暑くて足が止まりそうだったけれど、私だけではないと言い聞かせ、やっと種池山荘についた。山荘の前は一面にコバイケイソウが咲き誇り、小屋の奥にはキヌガサソウが群れをなして咲いていた。お昼を食べて爺ヶ岳へ向かった。遮るものがなく正面の頂上目指してひたすら登った。それでもシャクナゲ、イワカガミ、チングルマなどが咲いていて感激、カメラを出す余裕のない私はカメラ係の小川さんに「この花撮ってください」といちいち言ったので、「小川さん」と呼ぶと「なーに？」と迷惑そうな笑顔で花の写真を撮ってくれた。また爺ヶ岳の北側斜面にはコマクサが群生していてまたもや大感激。冷池山荘への最後の登りを踏ん張り 16:30 到着。山荘はとてもきれいな部屋で男性４人が下段、女性２人が上段の１部屋で快適な部屋だった。

22 日はいよいよ鹿島槍ヶ岳に向かう。雨の予報だったが北アルプスの山々がくっきり見え、富士山も見えてきた。頂上（南峰）に達した時は嬉しかった。千葉支部の立ち上げに尽力し５年前に亡くなった豊倉さと子さんが「爺ヶ岳からだったら行けそう」と言って山行を約束したことを思い出した。あれから５年、私はようやく鹿島槍ヶ岳に立てたことを彼女に伝えることができた。頂上から布引山にかけてはハクサンイチゲやミヤマキンポウゲ等見事な美しさで、さながら花街道、ライチョウまでもが現れ夢のようなひとときを満喫した。冷池で一休みしていると北峰を往復してきた三田さん、小川さんと合流、種池山荘までは雨の中をひたすら歩いた。

23 日柏原新道を下山、10 時に登山口到着。大町温泉で汗を流し解散。晴れ、曇り、雨と、ほどよくお付き合いの鹿島槍ヶ岳山行だった。

参加者：松田宏也（L）、三田博、平出正美、小川和敏、羽藤美代子、湯下正子

花の篭ノ登山から水ノ塔山

８月２日(金)　　山﨑　完治

20 数年前に、新幹線と路線バスを利用し水ノ塔山から篭ノ登山、池ノ平の湿性植物や三方ケ峰のコマクサの群生地を経て地藏峠までの日帰り登山をしたことがある。今回は日大ワンダーフォーゲル小屋に宿泊、のんびり朝食を取った後に車で兎平登山口まで行き、そこから篭ノ登山に登り水ノ塔山へ抜けるという、楽チンに花を楽しめるコースである。

7 時 30 分日大ワンダーフォーゲル小屋を車で出発し、水洗トイレが設置された広い駐車場の兎平（2,060m）に向かう。兎平は池ノ平遊歩道とコマクサが群生する三方ケ峰の尾根への入口でもある。駐車場でストレッチ体操した後、8 時 10 分クマザサに覆われた樹林帯の緩やかな登山道から篭ノ登山を目指す。約 50 分で樹林帯を抜け、赤ゾレの縁を急登すると 2,228mの一等三角点のある篭ノ登山である。円頂の 360 度の展望ができる頂上であるが、この日はあいにくの天気で池ノ平から三方ケ峰・

西篭ノ登山がガスの切れ間から垣間見れる空模様であった。小休憩をしていると 75 歳で 100 名山を踏破したというご夫婦が登ってきたので記念撮影をお願いした。西篭ノ登山を背に樹林帯の中の急坂を下ると水ノ塔山への山稜へ取り付く。ここからの登山道は緩やかな登りでハナニガナ・イブキジャコウソウ・ハクサンオミナエシ、ゴゼンタチバナやニッコウキスゲ・コオニユリ・オトギリソウ等のお花畑である。

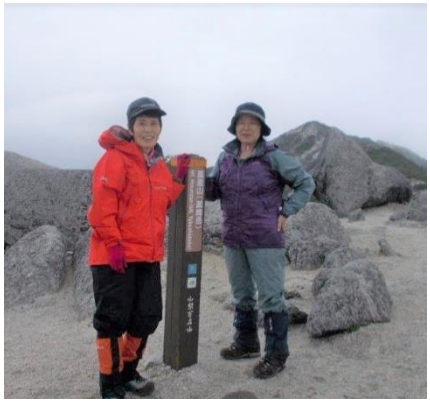
途中、水ノ塔山から篭ノ登山に向かう元気な自然学校の児童と出会う。水ノ塔山直下では都内の中学校の運動部員の集団とすれ違う。集団を見送り少し登ると 2,202mの水ノ塔山の頂上である。雨模様の空となり、雨具の準備をして早めの昼食を取っていると高峰温泉から登ってきた男性と出会う。赤ゾレの山肌に沿って下り高峰温泉登山口には午後 1 時 20 分に到着した。

参加者　松田宏也（L）・坂上光恵・山﨑完治

鳳　凰　三　山

8月21日（水）～8月24日（土）　羽藤美代子

秋雨前線の影響で曇りと雨の予報の中、22日夜叉神ヒュッテ前のバス停に降りたのが10；17。ヒュッテのご主人に遅い出発時間なので気をつけてと言われる。前泊の湯下さん、松田さんはすでに7時に出発。南御室小屋まで5時間あまり一人では不安なので前泊の川島さんに同行をお願いした。1時間程で夜叉神峠小屋着。視界の無い樹林帯の中、風も無く、汗がとめどなく出る。心配していた雨も降らず16：40南御室小屋に着く。先に着いていた二人に迎えられ、小屋の前のキンキンに冷えた天然水を飲んでようやく安堵した。小屋のお花畑にはヤナギラン、オヤマリンドウ、トリカブト、ヤマオダマキ等、沢山の花が咲いている。そして湿り気のある枯れ木に寄生すると言う、とろろ昆布のようなサルオガセが絡まる木々が何故か多い。



翌日は夜中からの小雨が朝には雨脚が強くなる。松田さんがネットで天気予報を見てこれから雨が小降りになり昼頃には雨は止むと言う。雨が小降りになって10：50薬師岳に向けてカッパを着て出発。私の今年の山行はカッパが大活躍、樹林帯の木々の葉も苔も雨の日は生き生きしている。しばらく樹林帯を歩くと花崗岩と白砂が現れて岩と砂の間に可愛いピンク色のタカネビランジが沢山咲いている。白い砂礫地に可憐な花がどうしても似合わない気がした。薬師岳から白峰三山は雲で見えなかったが、観音岳まで砂礫の稜線を歩くのは開放感があり楽しい。観音岳13：30着。ふと、甲府盆地方面を見ると、大きな七色のきれいな虹の橋。観音岳と虹に挟まれ、美しい光景にしばらく見とれた。

天気予報が悪くても山は行ってみないと分からないと松田さんはいつも言う。実感した瞬間だった。観音岳から地蔵岳のオベリスクがはっきりと見えた。地蔵岳は次回の楽しみにして小屋に戻る。翌朝は青空で、辻山からの白峰三山は素晴らしい眺めだった。下山中通り抜ける風は爽やかで夏の終わりを感じた。

参加者：松田宏也(L)、湯下正子、川島辰雄、羽藤美代子

公益事業

県民の森でバーベキュー　晴香園の子どもたち

8月6日（火）～7日（水）　三木雄三

夏休みの思い出にと、公益行事の晴香園ハイキングが8月6～7日に鴨川市の県内浦山県民の森であり、バーベキューやスイカに舌鼓。花火とちょっぴり怖いお化け話で夜を過ぎし、翌日は清澄山ハイキングに汗を流した。「また山、行きたいなあ」と子どもたち。

時代が令和に変わって最初の晴香園行事。今回はうれしいバンガローで宿泊とあり、鴨川駅前で食材の買い出しからスタート。食事は「出てくるのが当たり前」の子どもたち。あれもこれもと大騒ぎ。引率の先生２人も口出しせず、買い物を見守った。県民の森に到着後、直ちに調理に取りかかるも、バーベキューの火おこしに悪戦苦闘。どうにか焼きそば、焼肉、野菜サラダを仕上げ、助っ人のわれわれ千葉支部員たちに「どうぞ食べて下さい」と運んでくれた。

翌日は朝から猛暑。体調を考えて林道までは森の車で送ってもらいショートカット。うっそうとした常緑広葉樹や地層の露頭を見学しながら清澄寺の広場に到着した。

参加者：松田宏也、鈴木操、高橋琢子、吉田明子、三木雄三。
晴香園は引率職員２人、児童生徒男女６人。

ビールパーティー　8月11日（日）　香高真奈美

今年は試しに昼間開催にしたビールパーティー。「帰りの時間気にしなくていいから参加します！」という方々もいて39人も集まりました。猛暑でビール日和。松田支部長の「今日は年金や病気の話ではなく、山の話をいっぱいしましょう。親交を深めましょう！」という乾杯の言葉から始まり会は大いに盛り上がりました。

ただお店が、船橋駅に近くとは言えわかりにくく迷われた方もいて・・・ゴメンなさい！

来年も元気で集まりましょう。

自然学クラブが「鵜原の地層」巡検

6月9日（日）　　三木雄三

「この山はどうして尖がっているのだろう」「あの木はなんでグニャリ曲がっているのかな」…。そんな自然を多角的に見つめようと「自然学クラブ」が発足。第一回目の自然観察会が６月９日、勝浦市の鵜原理想郷で開かれた。支部会員、会友１７人が参加した。

テーマは「房総の基盤となる地層と海浜植物」。房総の地層は砂と泥が互い違いに積み重なった

「互層」。鵜原は日本海が誕生した時代の2400万~1700万年前の三浦層群で成りたち、氷河期に海面が低下、砂岩を主体とした地層が浸食されリアス海岸になった。

この日の巡検では、海の強風で洞窟のように浸食された砂岩の丘や海底地滑りでぐちゃぐちゃに曲がったスランプ層の地層、美しいヤマユリに参加者から驚きの声。縄文遺跡では旧石器に詳しい会友の山岡磨由子さんが磁石で砂岩の砂鉄をすい付け「砂鉄はこの辺りの地層の特徴」と教えてくれた。若手の有賀七海さんは「青い海だけじゃなく、地層も勉強できた。新たな発見。すごい」と話していた。

親睦会も盛り上がり、早くも「次回はどこに」…。同クラブでは鴨川・嶺岡の「枕状溶岩と蛇紋岩「深大寺で武蔵野台地の成りたちを探る」など県内外の巡検も計画している。

参加者：三木雄三(L)、有賀七海、石岡慎介、梶田義弘、香高真奈美、齋藤米造、塩塚生二、鈴木操、高橋琢子、竹内進、平出正美、舩木元、三品京子、山岡磨由子、吉野聰、吉田望、渡部孝雄

台風15号による強風被害と停電、断水に遭われた皆様に

心からお見舞い申し上げます。

災害に強い千葉であることを願ってやみません。

令和元年９月

日本山岳会千葉支部長　松田宏也

日本山岳会千葉支部

山　行　計　画

（支部山行）

10 月以降の山行計画です。参加・問い合わせは各リーダーへ。

日程	山　系　名	難度	備　　考	リーダー	締切
10.3(木)～5(土)	裏岩手・三ツ石・八幡平	C	松川温泉から裏岩手縦走。避難小屋泊	三田　博	締切済み
10.19(土)	富士山お中道	A	公益事業・晴香園　　先着 4 人	三木雄三	10.12(土)
11.3(日)～4(月)	雲取山	C	三条の湯に宿泊。下山は鴨沢へ	三田　博	10.7(月)
11.9(土)	奥秩父・雁ヶ腹摺山	B	500 円札の富士山撮影地	松田宏也	10.27(日)
11.23(土)	三石山、元清澄山	B	三石山から元清澄山ピストン	三田　博	11.9(土)
11.30(土)	筑波山	B	初冬を楽しむ	松田宏也	11.16(土)
11.30(土)～1(日)	二つ箭山（ふたつやさん）	C	福島いわきの岩峰・健康ランド泊	三田　博	11.17(土)
12.7(土)	年次晩餐会		会報「山」に詳細		
12.8(日)	館山野鳥の森	A	公益事業、茂原子どもセンター支援	三木雄三	10.31(木)
12.8(日)	房総の沢①三間川	C	清和県民の森から、要・沢装備	三田　博	12.1(日)
12.14(土)～15(日)	八ヶ岳・北横岳	D	冬山初心者向け	松田宏也	11.20(水)
12.21(土)～22(日)	房総・高宕山と元清澄山	B	忘年山行、15 ページ参照	三田　博	11.20(水)
12.28(土)	房総の沢②　キンダン沢	C	小櫃川、今年の山納めは沢歩きで	三田　博	12.21(土)
1.5(日)	房総の沢③梨沢	C	6 メートル不動滝にチャレンジ！	三田　博	12.28(土)
1.11(土)～12(日)	新島・宮塚山	B	伊豆諸島の山旅シリーズ①	山田紀夫	12.15(日)
1.12(日)	花嫁街道	A	公益事業・晴香園　先着 4 人	三木雄三	12.28(土)
1.18(土)～19(日)	谷川岳または武尊山	D	雪山、厳冬期だが晴れたら天国	三田　博	12.19(木)
1.25(土)	高松山（丹沢南部）	A	富士山の眺望良し	松田宏也	1.15(水)
2.1(土)	房総の沢④志組川	C	高宕山自然動物園から	三田　博	1.25(土)
2.8(土)	塔ノ岳（大倉尾根）	C	安全登山のための体力測定登山	山田紀夫	2.1(土)
2.15(土)～16(日)	四支部懇談会		つくば市小野崎　ホテルグランド東雲　茨城支部主催	詳細：　別途通知	
2.29(土)	湯河原・幕山	B	湯河原梅林「梅の宴」	三田　博	2.22(土)
3.7(土)	大楠山	A	三浦半島の最高峰	松田宏也	3.1(日)
3.14(土)	赤ぼっこ	B	見晴らし良い青梅の低山	三田　博	3.7(土)

3.21(土)～22(日)	神津島・天上山	B	伊豆諸島の山旅シリーズ②	山田紀夫	2.20(木)
5.16(土)～17(日)	第36回 全国支部懇談会		宮崎市青島 ANAホリディインリゾート宮崎	詳細：　次号	

（同好会及び個人山行の計画）

日程	山　系　名	難度	備　　考	リーダー	締切
10.19(土)	印旛沼から利根川② **W**	W	安食駅―利根川―房総風土記の丘―下総松崎駅へ。房総の村は65歳以上無料	杉本正夫	10.11(金)
10.19(土)～21(月)	黒斑山、四阿山　**B**	B	高峰の日大WV小屋　1泊参加も可	松田宏也	10.11(金)
10.26(土)	深大寺周辺巡検　**N**	W	公益事業・武蔵野台地をめぐり深大寺蕎麦を食す	三木雄三	10.20(日)
10.27(日)～28(月)	皇海山＋α　**B**	C	民宿に泊まり沼田側から	松田宏也	9.30(月)
11.2(土)～3(日)	八ヶ岳・編笠山　**B**	B	遠い飲み屋の小屋締め	松田宏也	10.15(火)
11.17(日)	浦安市街巡り　**W**	W	新浦安駅から南側埋立地の新市街と北側の古い漁師町との比較	杉本正夫	11.10(土)
12.1(日)	市川のイチョウとモミジ　**W**	W	市川大野駅―万葉植物園―市川霊園―市川動植物園―大町駅 or くぬぎ山駅	杉本正夫	11.22(金)
12.26(木)～28(土)	シーズン初スキー**B**	SK	尾瀬岩鞍と丸沼スキー場	松田宏也	11.30(土)
1.10(金)～13(月)	山形蔵王スキー　**B**	SK	10日サンゴロウ泊、11、12日は山形山岳会小屋泊	松田宏也	12.15(日)
1月後半	成田山初詣　**W**	W	成田さくらやま公園と新勝寺をたずねます	杉本正夫	
2.22(土)～24(月)	山形蔵王スキー　**B**	SK	山形山岳会小屋泊	松田宏也	1.25(土)
3.8(日)～10(火)	八ヶ岳・赤岳　**B**	B	赤岳鉱泉2泊	松田宏也	2.23(日)
3.28(土)	千葉昭和の森　**N**	W	公益事業・生きた化石「カタクリ」巡検	三木雄三	3.20(金)

W＝ウォーキングクラブ、**N**＝自然学クラブ、**B**＝ビスターリ倶楽部

リ　ー　ダ　ー　連　絡　先	
杉本正夫	
松田宏也	
三木雄三	
三田　博	
山口文嗣	
山本哲夫	
山田紀夫	

W　ウォーキング
A　整備され歩行２～３時間
B　歩行５時間前後
C　歩行７時間前後、一部岩あり体力要
D　強い体力、岩技術要
E　高い適応能力要、危険度大
（難易度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は難易度アップとする。）

☆山行の心得　リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。連れて行ってもらうではなく自主的な意識を持ち参加してください。リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来てください。また、山行に見合った登山保険には必ず入ってきてください。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すことになります。日頃の自主トレーニングも行うようにしてください。

●忘年山行のお知らせ

今年も千葉支部の打ち上げを内浦山県民の森「やすらぎ」で行います。名物の大きな金目鯛の煮付を肴に、ことし 1 年間の山旅の思い出と来年の山の抱負を語り合いませんか。

【12 月 21 日（土）・高宕山】
3 コース予定（行動 4 時間程度）
A 石射太郎登山口から　B 怒田沢登山口から　C 高宕大滝から沢登り（要・沢装備）
下山後、内浦山県民の森へ　宿泊・宴会
【12 月 22 日（日）・元清澄山】
内浦山県民の森から車移動、清澄寺駐車場へ
清澄寺から元清澄山ピストン　約 5 時間

申し込み　　係り：三田博
・どちらか 1 日だけでも、忘年会のみも参加可
・希望の参加コース、マイカー提供の可否もお知らせください。宿泊＆忘年会 10,000 円
締切り　11 月 20 日（水）　宿泊は定員 20 名ですのでお早めに。

☆登山計画書の提出について　どのような山行をするにも、管轄警察署に登山計画書を提出し、家族にもコピーを渡していると思います。日本山岳会では、支部が主催する山行はもちろん、個人山行についても支部に登山計画書を提出することになっています。千葉支部では、そのことを踏まえて受付窓口を設けてあります。

≪メール受付窓口　chiba_jac@yahoo.co.jp≫

受け付けた計画書は、支部長・副支部長・山行委員長および事務局で情報を共有し、必要な場合は助言をしています。同時に日本山岳会の遭難対策規程に基づいて、本部遭難対策委員会へ転送しています。計画書の書式については、支部の役員会で決めた書式のものがあります。連絡いただければ送信いたします。

☆山行の申込み　リーダーが記載漏れのない計画書を作成する必要から参加申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。
氏名、生年月日、年齢、住所、自宅電話番号、携帯電話番号、緊急連絡先氏名（続柄）、緊急連絡先電話番号
山行によっては定員を設けている場合があります。その時は先着順になりますので早めに申し込みして下さい。山行によっては、技術・体力不足、初参加で力量が不明の場合はお断りすることがあります。

役　員　会　の　報　告

6月報告　　6月18日（火）　市川アイリンク

出席者　小川、杉本、三品、山口、山本、吉野　6名

1. 支部山行報告・6.9自然科学クラブ鵜原理想郷（17名）　・6.14～15三つ峠（5名）
   ビスターリ・6.2～3十文字峠、甲武信岳（4名）
2. 山行予定・6.22多古アジサイウオーク　・6.16～19岩手の山（栗駒、早池峰）
   ・6.29～30沢歩き　・7.11～13蔵王、月山
3. 全国支部懇　栃木支部　9名参加
4. 山行計画フォーマットの修正について
5. 救急救助講習会（本部主催）2名参加

7月報告　　7月16日（火）　市川アイリンク

出席者　杉本、廿楽、松田、三木、三田、三品、谷内、山田、山本、吉野　10名

1. 山行報告　・6.22多古アジサイウオーク6名　・6.16～19岩手の山（栗駒、早池峰）（7名）
   ・7.13～14沢歩き3名　・7.11～13蔵王、月山（6名）
2. 山行予定　・7.20～24針ノ木岳　・鹿島槍ヶ岳　・8.2～6剣岳、8.6～7内浦山キャンプ
   ・8.10小下沢　・9.5～9聖岳・光岳　・9.14～15木曽駒・空木岳

3郡界尾根　PJチームでの検討

8月役員会（休会）

お　知　ら　せ

●会員の動向

【入会会員】

中場　義則（なかば・よしのり）さん　16071　東京都杉並区

長谷川裕彦（はせがわ・ひろひこ）さん　16515　印旛郡栄町

【入会会友】

今井　貴朗（いまい・たかお）さん　大網白里市

永岡　敏昭（ながおか・としあき）さん　八千代市

【退会会友】Mさん、Hさん

●今年度の会費入金のお願い

今年度分の会費が未納の方は、急ぎ入金をお願いします。会員1,500円、会友3,000円です。

入金先：ゆうちょ銀行　口座記号　　加入者名：日本山岳会千葉支部

印刷　三陽メディア株式会社